

第7回 日本炎症性腸疾患学会学術集会

The 7th Annual Meeting of Japanese Society for Inflammatory Bowel Disease

プログラム・抄録集

会 期：平成28年7月9日(土)～10日(日)
会 場：国立京都国際会館
会 長：松井 敏幸(福岡大学筑紫病院 臨床医学研究センター(消化器内科))

ごあいさつ

学術集会を開催するに先立ち一言ご挨拶いたします。日本炎症性腸疾患学会(JSIBD)は、今回より学会化されます。2009年の第5回JSIBD研究会開催より時間が空いて2014年第6回研究会が渡辺守会長のもとに再開されました。これまでの6回研究会開催分を考慮して今回は第7回学術集会とします。本会の主な役割は、IBDを診療する日本人専門家を養成する目的が主ですが、実際には学術集会の定期開催と海外学会への若手参加者への助成なども重要な開催実績です。また、アジアの会員を対象とするAsian Organization for Crohn's and colitis(AOCC)との協調も大切な役割でしょう。特に今回は、AOCCとの同時開催で連携を強くとることになります。それは、学会の頻回開催が会員・研究者の負担になることを避けるためでもあります。

歴史を辿ると、2006年に初めて開催された日韓炎症性腸疾患シンポジウム(Korea-Japan IBD symposium)では韓国側のKASID(Korean Association for the Study of Intestinal Diseases)が主催団体であり、それに対応して日本側でJSIBDが組織化され、活動を開始したことに始まります。K-J IBDシンポジウムは第4回(2010年)までソウルと東京で交互に開催されました(同時通訳付き)。その後Asian Society for IBDに発展し、第6回K-J IBD symposium(2012年)に引き続き2013年には第1回AOCCが東京で開催されました。その後第2回AOCCがソウル、第3回AOCCが北京で開催されました。その後上述しましたが2014年に第6回JSIBDは国内で単独で教育目的に開催されました。今年、第4回AOCCが7月に京都で開催(渡辺守会長)されることになり、その時期に併催されることになりました。AOCCで予定される海外演者による講演やディスカッションとは別に期日を改めて日本語での開催予定です。単独開催ですから教育セミナー的な主題とポスターセッションが主体となる予定です。皆様の活発なる参加を希望します。

2016年6月

第7回日本炎症性腸疾患学会学術集会

会長 松井敏幸

福岡大学筑紫病院 臨床医学研究センター (消化器内科)

第7回 日本炎症性腸疾患学会学術集会

会 期：平成 28 年 7 月 9 日（土）～ 10 日（日）

会 場：国立京都国際会館
〒 606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町 422 番地
電話番号：075-705-1229

第 1 会場（口演会場）	アネックスホール 1
第 2 会場（口演会場）	アネックスホール 2
第 3 会場（ポスター会場）	ROOM B - 1
第 4 会場（フリースペース）	ROOM B - 2

会 長：松井 敏幸（福岡大学筑紫病院 臨床医学研究センター（消化器内科））

事 務 局：福岡大学筑紫病院 消化器内科
〒 818-8502 福岡県筑紫野市俗明院 1 - 1 - 1
TEL：092-921-1011 FAX：092-929-2630
事務局長 矢野 豊

常設プログラム委員会：

委員長

仲瀬 裕志（札幌医科大学医学部 消化器内科学講座）

副委員長

平井 郁仁（福岡大学筑紫病院 消化器内科）

委員

矢野 豊（福岡大学筑紫病院 消化器内科）

新井 勝大（国立成育医療研究センター 器官病態系内科部消化器科）

内野 基（兵庫医科大学 IBD センター 外科）

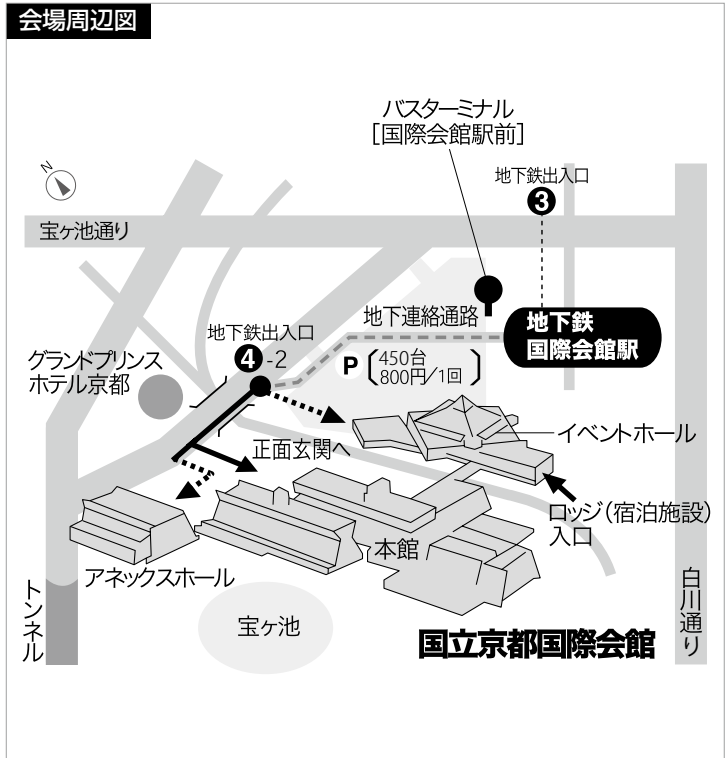
国崎 玲子（横浜市立大学附属市民総合医療センター 炎症性腸疾患センター）

小林 拓（北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター）

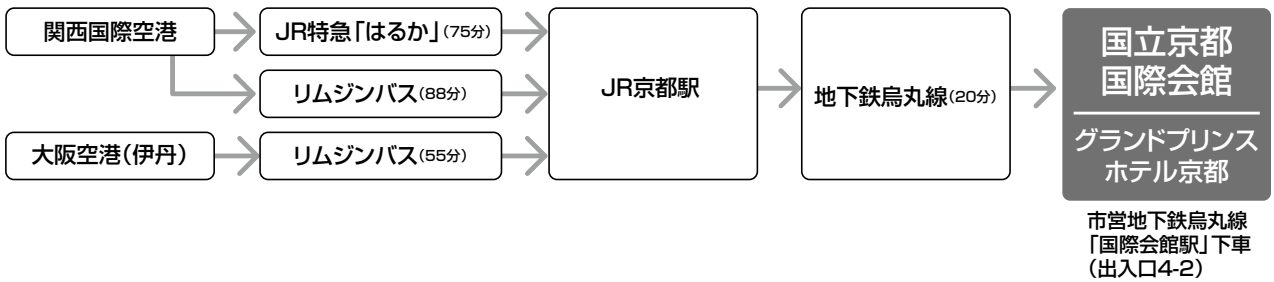
辰巳 健志（横浜市立市民病院 炎症性腸疾患科）

松岡 克善（東京医科歯科大学 消化器内科）

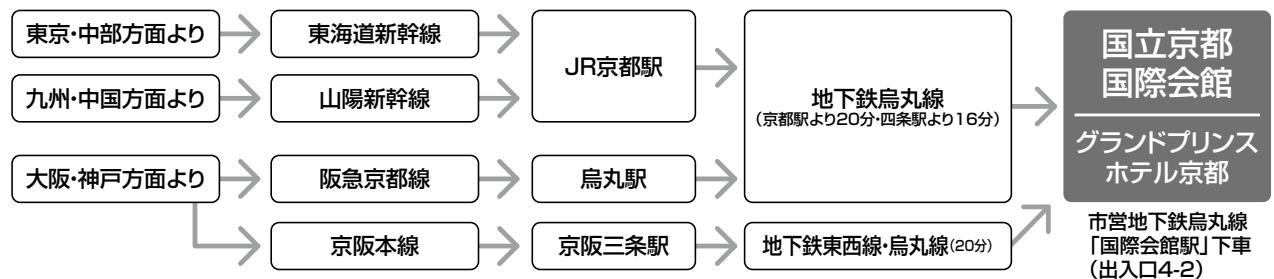
アクセス



【空港からのアクセス】

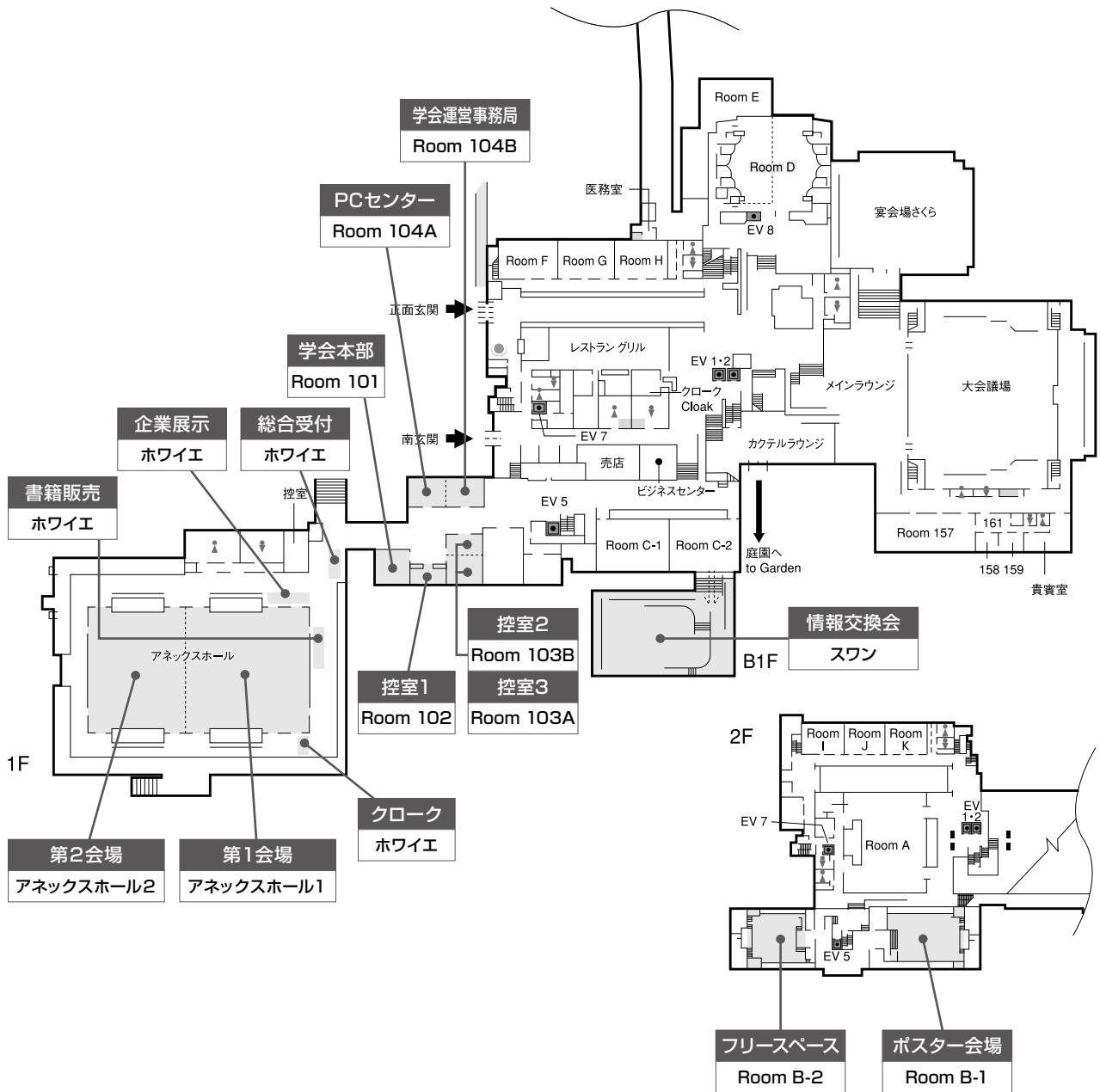


【鉄道でのアクセス】



● 駐車場：国立京都国際会館の駐車場（約 400 台）がご利用できます。（有料）

会場案内図



お知らせとお願い

1. 参加受付

受付時間：平成 28 年 7 月 09 日（土） 15:00 ～ 18:30
平成 28 年 7 月 10 日（日） 07:00 ～ 14:30

2. 参加登録費

	参加登録費
会員（正会員・準会員）	6,000 円
非会員	10,000 円
初期・後期研修医 コメディカル	1,000 円

- * 総合受付にて、参加登録費をお納めのうえ、参加証をお受け取りください。
お支払は、現金のみとなります。
(クレジットカードのお支払はお受けいたしかねます。)
- * 会場内では参加証を必ずお付けください。再発行はいたしません。

3. 日本炎症性腸疾患研究会 入会のご案内

日本炎症性腸疾患研究会は、多くの医師、研究者、医療従事者等の皆様の入会を歓迎いたします。研究会への入会手続きについては、当研究会のホームページをご参照ください。

お問合せ先：日本炎症性腸疾患研究会 事務局
〒160-0825 東京都新宿区神楽坂 2-12-1-502
TEL：03-3268-6423 FAX：03-6280-7483
E-mail：jimukyoku@jsibd.jp

- * 当日、会場でも入会手続きをお受けいたしております。手続き後、会員金額にてご参加できます。

4. その他

- * 会場内では携帯電話はマナーモードに切り替えていただき、ご使用はご遠慮ください。
- * 講演会場内での撮影および録音はご遠慮ください。
- * 呼び出しはお受けできません。

講演に関するお願い

発表時間

セッション名	発表時間	質疑応答 / 検討	総合討論
IBD 診療の応用編 - 難治例への挑戦	20分	5分	なし
パネルディスカッション1	5分	なし	30分
IBD topics	30分	5分	なし
CCFA2015, 11thECCO 派遣医師参加報告	5分	なし	なし
パネルディスカッション2	15分	なし	15分
Lecture for young experts (1)	20分	5分	なし
Lecture for young experts (2)	20分	5分	なし
若手医師のための症例検討セッション	22分		なし

司会の先生方へ

1. ご担当のセッション開始 20 分前までに次座長席（会場前方右側）にお座りください。
2. 割り当て時間は上記のとおりです。時間厳守にご協力ください。

口演の先生方へ

1. 発表時間
口演と質疑、討論は座長の指示に従ってください。割り当て時間は上記のとおりです。時間厳守にご協力ください。
2. セッションの開始1時間前（午後9時からのセッションは30分前）までにPC受付にて試写・受付をすませ、20分前までに次演者席（会場前前方左側）にお座りください。
3. 発表形式
 - (1) 口演発表はすべてPCプレゼンテーションで行います。
 - (2) 利用可能なパソコンについて
 - ・ Windows の場合：ご自身のPCないしUSBメモリーまたはCD-Rにてデータをご持参ください。ただし、動画がある場合にはご自身のPCを持ち込んでください。
 - ・ Macintosh の場合：必ずご自身のPCを持参してください。Macintoshで作成されたデータのUSBメモリー等のメディアによる持ち込みには対応出来兼ねますので、ご注意ください。
 - (3) 音声について
 - ・ 音声出力に対応します。

(4) メディアでデータをお持ち込みいただく場合 (Windows のみ)

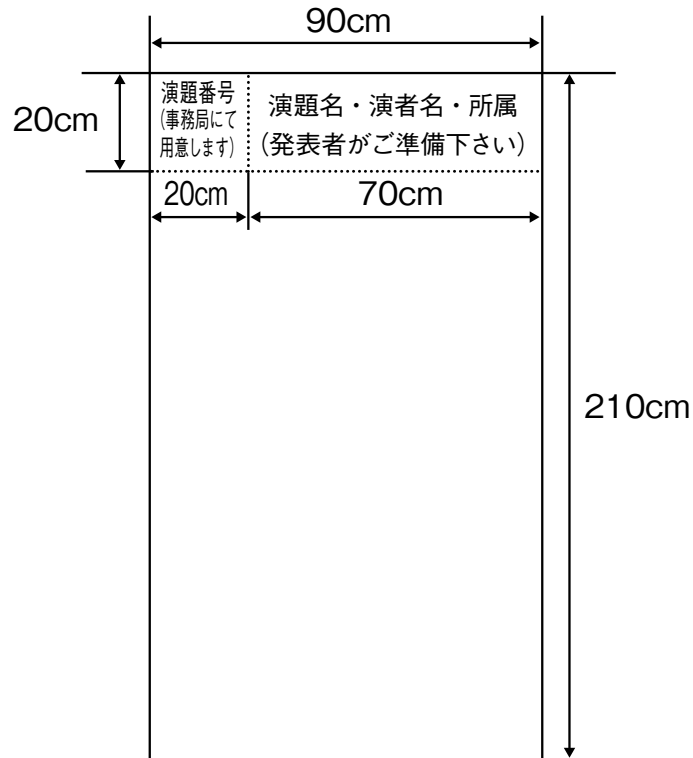
- ・用意する PC は Windows のみ、OS は Windows10、PowerPoint のバージョンは 2003 / 2007 / 2010 / 2013 / 2016 です。
- ・画面サイズは XGA (1024 × 768) です。16:9 で作成されている場合は上下に黒い部分が描写されます。
- ・文字化けを防ぐため、フォントは OS 標準のものを使用してください。
例) Century, Century Gothic, Times New Roman, MS 明朝、MS ゴシック
- ・講演データの枚数制限は特に設けませんが、決められた発表時間内に発表が終了するよう配慮してください。
- ・ご使用いただけるメディアは USB メモリーもしくは CD-R です。
- ・講演データは「演題番号+筆頭著者氏名」と名付けたフォルダーの中に保存してください。
- ・メディアを介したウイルス感染を防ぐため、最新のウイルス駆除ソフトでチェックしてください。
- ・PC 卓ではデータは修正いただけません。
- ・PC 卓でメディアから発表データをコピーし、講演に使用します。コピーした講演データは研究会終了後に責任をもって消去します。
- ・講演時には演題上のマウスを使用してお自身で操作してください。
- ・PowerPoint の「発表者ツール」機能は使用できません。

(5) PC をお持ち込みいただく場合 (Windows、Macintosh)

- ・外部出力可能な PC を持参してください。
- ・会場に用意するケーブルコネクタの形状はミニ D-sub15 ピンです。
- ・D-sub 変換が必要な場合 (Macintosh、SONY VAIO など) や Windows 8 などのデジタル出力機をご使用になる場合は、付属外部出力ケーブルを各自用意ください。
- ・必ず AC アダプター (電源コード) を持参してください。
- ・スクリーンサイズは 4:3 です。16:9 で作成されている場合は上下に黒い部分が描写されます。
- ・PC 卓ではデータは修正いただけません。
- ・必ずバックアップデータを用意して下さい。
- ・発表時には演題上のマウスを使用してお自身で操作してください。
- ・PowerPoint の「発表者ツール」機能は使用できません。
- ・講演終了後は直ちに PC を PC 卓より引き取ってください。

ポスター発表の先生方へ

1. 演題ごとに演題番号を付けた縦 210cm × 横 90cm のパネルを用意いたします。
 パネルの規定に従って演題名・演者名・所属・発表内容のポスターをご用意ください。
 ※「演題番号」は事務局で用意します。



- (1) 貼付・閲覧・セッション・撤去の時間は下記の通りとなります。

	貼付	閲覧	セッション	撤去
7月10日(日)	7:30～9:00	9:00～13:00 14:10～15:00	13:10～14:10	15:15～16:00

- (2) 演者の方は貼付時間内にポスター受付にて画鋏をお受け取りください。
- (3) ポスター発表について
- ・ポスターセッションの時間帯(13:10~14:10)は、ご自身のポスターの前で待機してください。
 - ・討論時間は、発表4分、質疑応答3分とします。
 - ・ポスター演題発表の中から優秀な演題に会長賞と優秀ポスター賞を授与いたします。会長賞と優秀ポスター賞には、ポスターに赤バラを付します。会長賞の受賞者は、当日閉会式前に表彰式を行います。受賞者の皆様は最後までご参加くださいますようお願い申し上げます。
- (4) 撤去時間を過ぎても残っているポスターは事務局にて処分させていただきます。予めご了承ください。

日程表

【1日目】 2016年7月9日(土) 17:30~18:30 **イブニングセミナー(第1・2会場)**
共催: 田辺三菱製薬(株)

18:30~ **情報交換会(バンケットホールスワン)**

【2日目】 2016年7月10日(日)

	第1会場 アネックスホール1	第2会場 アネックスホール2	第3会場 Room B-1	第4会場 Room B-2
7:00				
8:00	モーニングセミナー 共催: 持田製薬(株)		ポスター貼付	
	開会の辞			
9:00	理事長 挨拶			
	IBD診療の応用編— 難治例への挑戦 司会: 鈴木 康夫	Lecture for young experts (1) 司会: 清水 俊明 中村 志郎		フリースペース
10:00	Panel discussion 1 適切な抗TNF α 抗体 製剤治療とは? 司会: 本谷 聡 渡辺 憲治	Lecture for young experts (2) 司会: 二見喜太郎 杉田 昭		<ol style="list-style-type: none"> 1. IBD治療①Biologics 石田 哲也 2. IBD治療②タクロリムス、 免疫調節薬 石原 俊治 3. IBD治療③アフェレーシス 水野 慎大 4. IBD治療④5-ASA ステロイド 樋田 信幸 5. その他の治療 梅野 淳嗣 6. IBD画像①Abd US CT MRI 竹内 健 7. IBD画像②内視鏡 長堀 正和 8. 興味深い症例 芦塚 伸也 9. 血管炎・原因不明の腸炎 山本章二郎 10. ベーチェット病・単純性潰瘍 内山 和彦 11. IBD外科 木村 英明 12. IBD癌 辰巳 健志 13. 合併症 加藤 真吾 14. 感染症 井上 聡子 15. その他 長坂 光夫 16. 基礎① 荻野 治栄 17. 基礎② 土屋輝一郎 18. 基礎③ バイオマーカー その他 竹島 史直 19. メディカルスタッフ (コメディカル) 岸 昌廣
	Coffee break	Coffee break		
11:00	IBD topics 原発性免疫不全症から学ぶ IBDの病態 司会: 金井 隆典	若手医師のための 症例検討 司会: 池内 浩基 平井 郁仁	ポスター閲覧	
	CCFA2015, 11thECCO 派遣医師参加報告 司会: 岡崎 和一			
12:00				
	ランチョンセミナー1 共催: アヴヴィ合同会社 E A ファーマ(株)	ランチョンセミナー2 共催: (株)JIMRO 旭化成メディカル(株)		
13:00				
			ポスターセッション	
14:00				
	Panel discussion 2 チーム医療に焦点を! 司会: 日比 紀文 横山 薫	アフタヌーンセミナー 共催: コヴィディエンジャパン(株)	ポスター閲覧	
15:00	表彰式			
	閉会の辞		ポスター撤去	

プログラム

第1日目 7月9日 (土)

【第1会場／第2会場】 (アネックスホール1／2)

17:30～18:30 イブニングセミナー

司会：松本 主之 (岩手医科大学 消化器内科消化管分野)

テーマ：IBDに関する最新トピックス

クローン病と鑑別すべき疾患

～ chronic enteropathy associated with *SLCO2A1* gene (CEAS)～

梅野 淳嗣 (九州大学大学院 病態機能内科学)

炎症性腸疾患における

Fecal Immunochemical Testの臨床的意義

平岡佐規子 (岡山大学病院 消化器内科)

共催：田辺三菱製薬株式会社

【第1会場】 (アネックスホール1)

07:50～08:40 モーニングセミナー

司会：安藤 朗 (滋賀医科大学 消化器内科)

IBDモニタリングツールとしての便中カルプロタクチンの有用性

仲瀬 裕志 (札幌医科大学医学部 消化器内科学講座)

共催：持田製薬株式会社

08:45～08:50 開会の辞

会長：松井 敏幸 (福岡大筑紫病院 臨床医学研究センター (消化器内科))

08:50～09:00 理事長 挨拶

理事長：渡辺 守 (東京医科歯科大学 消化器内科)

9:00 ~ 09:50 IBD診療の応用編 – 難治例への挑戦

司会：鈴木 康夫（東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座 消化器内科分野）

O-01 クローン病における生物学的製剤二次無効の現状とその対策

松浦 稔（京都大学医学部附属病院 内視鏡部）

O-02 ステロイド抵抗性の潰瘍性大腸炎に対する治療戦略を考える

猿田 雅之（東京慈恵会医科大学 消化器・肝臓内科）

9:50 ~ 10:40 Panel discussion 1 適切な抗TNF α 抗体製剤治療とは？

司会：本谷 聡（札幌厚生病院 IBDセンター）

渡辺 憲治（大阪市立総合医療センター 消化器内科）

PD-01 炎症性腸疾患に対する抗TNF α 抗体製剤治療において免疫調節薬は併用すべきか？

江崎 幹宏（九州大学病態機能内科学）

PD-02 中止が可能か？可能ならばどのような症例か？

抗TNF- α 抗体製剤治療の休止は可能か？

高木 智久（京都府立医科大学 消化器内科）

PD-03 IBD治療におけるBiologicsの使いわけについて

鎌田 紀子（大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科）

PD-04 IBD治療における血中濃度測定は必要か？

鎌田 紀子（大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科）

10:40 ~ 10:50 コーヒーブレイク

10:50 ~ 11:25 IBD topics

司会：金井 隆典（慶應義塾大学医学部 内科学（消化器））

O-03 原発性免疫不全症から学ぶIBDの病態

森尾 友宏（東京医科歯科大学大学院・発生発達病態学分野）

11:25 ~ 12:00 CCFA2015, 11thECCO派遣医師参加報告

司会：岡崎 和一（関西医科大学 内科学第三講座）

O-04 Adverse effects on renal function in long-term use of tacrolimus for ulcerative colitis patients

岩本 史光（東京医科歯科大学 消化器内科）

O-05 Investigation of mismatch cases between magnetic resonance enterocolonography and endoscopy in intestinal lesion of patients with Crohn's disease.

好川 謙一（防衛医科大学校 内科学講座(消化器) / 東京慈恵会医科大学 消化器肝臓内科）

- O-06 The Ulcerative Colitis Endoscopic Index of Severity is useful to predict medium- to long-term prognosis in ulcerative colitis patients with clinical remission.
新井 万里（慶應義塾大学医学部内科学（消化器））
- O-07 Anti-fibrotic effects of a novel small compound that promotes the nuclear translocation of YB-1 in a mouse model of colorectal fibrosis
今井 仁（東海大学医学部内科学系消化器内科）
- O-08 Usefulness of, and Factors Influencing, the Ulcerative Colitis Endoscopic Index of Severity (UCEIS) for the Evaluation of Short-term Treatment Response
川岸 加奈（北里大学医学部 消化器内科学）
- O-09 MAIT Cell Activation Reflects Mucosal Inflammation in Ulcerative Colitis.
芳賀 慶一（順天堂大学医学部附属順天堂病院 消化器内科）
- O-10 Clinical analysis of the postoperative bowel function in elderly patients with ulcerative colitis
二本 了（横浜市立市民病院 外科）

12:10～13:00 ランチョンセミナー 1

司会：久松 理一（杏林大学医学部 第三内科）

テーマ：長期マネジメントを見据えたクローン病の最適な治療選択

クローン病長期治療におけるヒュミラのさらなる可能性

安藤 朗（滋賀医科大学医学部 消化器内科）

共催：アッヴィ合同会社・E A ファーマ株式会社

14:15～15:00 Panel discussion 2 チーム医療に焦点を！

次世代のIBD患者マネジメントに向けて

—Medical Staffの視点からみたこれからのIBD治療—

司会：日比 紀文（北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター）

横山 薫（北里大学医学部 消化器内科学）

PD-05 IBD Nurseに求められるもの

阪上佳誉子（医療法人錦秀会 インフュージョンクリニック）

PD-06 IBDセンター成功例：その秘訣とは？

小林 拓（北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター）

IBD professional を目指して、これからのチーム作りに何が必要か

(Panel discussion)

パネラー：国崎 玲子（横浜市立大学附属市民総合医療センター IBDセンター）

前本 篤男（札幌東徳洲会病院 IBDセンター）

15：00～15：10 優秀ポスター表彰式

15：10～15：15 閉会の辞

次回会長：鈴木 康夫（東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座 消化器内科分野）

【第2会場】（アネックスホール2）

09：00～09：50 Lecture for young experts (1)

司会：清水 俊明（順天堂大学医学部 小児科）

中村 志郎（兵庫医科大学 炎症性腸疾患学講座内科部門）

○-11 IBD診療における、内視鏡的疾患活動性評価の重要性と課題

高津 典孝（田川市立病院内科（消化器））

○-12 小児IBDの治療目標と治療戦略

新井 勝大（国立成育医療研究センター消化器科）

09：50～10：40 Lecture for young experts (2)

司会：二見喜太郎（福岡大学筑紫病院 外科）

杉田 昭（横浜市立市民病院 炎症性腸疾患センター）

○-13 潰瘍性大腸炎合併dysplasia・大腸癌のサーベイランスと内視鏡的特徴

長沼 誠（慶應義塾大学医学部 消化器内科）

○-14 潰瘍性大腸炎術後、回腸囊炎の診断と治療

内野 基（兵庫医科大学 炎症性腸疾患学講座 外科部門）

10：40～10：50 コーヒーブレイク

10：50～12：00 若手医師のための症例検討

司会：池内 浩基（兵庫医科大学 炎症性腸疾患外科）

平井 郁仁（福岡大学筑紫病院 消化器内科）

○-15 炎症性腸疾患診療における内視鏡indexの有用性について—自験例より—

吉野 琢哉（公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院 炎症性腸疾患センター）

○-16 回腸囊炎のQ&A

荒木 俊光（三重大学 消化管・小児外科学）

○-17 小児治療のQ&A

柳 忠宏（飯塚病院 小児科）

コメンテーター：小金井一隆（横浜市立市民病院 炎症性腸疾患科）

田中 浩紀（札幌厚生病院 IBDセンター）
遠藤 克哉（東北大学 消化器病態学分野）

12：10～13：00 ランチョンセミナー2

司会：鈴木 康夫（東邦大学医療センター佐倉病院 消化器内科）

血球成分吸着除去療法の維持療法としての可能性

長沼 誠（慶應義塾大学医学部 消化器内科）

共催：株式会社JIMRO

旭化成メディカル株式会社

14：15～15：00 アフタヌーンセミナー

司会：猿田 雅之（東京慈恵会医科大学 消化器・肝臓内科）

テーマ：カプセル内視鏡からわかるIBD診断管理のヒント

カプセル内視鏡を用いたクローン病マネージメント

可児 和仁先生（埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科）

潰瘍性大腸炎患者における検査の新たな選択肢：大腸カプセル内視鏡

能田 貞治先生（大阪医科大学 第二内科、社会医療法人祐生会 みどりヶ丘病院 消化器内科）

共催：コヴィディエン ジャパン株式会社

【第3会場】

13：10～14：10 ポスターセッション

IBD治療①Biologics

座長：石田 哲也（大分赤十字病院 消化器内科）

P-01 難治性潰瘍性大腸炎に対するアダリムマブの治療成績

永井 博（東北大学病院 消化器内科）

P-02 難治性潰瘍性大腸炎におけるアダリムマブの寛解導入療法

松井 啓（虎の門病院 消化器内科）

P-03 難治性潰瘍性大腸炎に対するInfliximabの短期予後は長期予後を予測する

高田 康道（福岡大学筑紫病院 消化器内科）

P-04 Ulcerative Colitis Endoscopic Index of Severity(UCEIS)を用いた抗TNF- α 抗体製剤の有効性予測と粘膜治癒と血清トラフ濃度との関連性について

森田 幸弘（滋賀医科大学消化器内科）

P-05 クローン病アダリムマブ寛解維持療法における内視鏡的粘膜治癒に必要な血清トラフ値に関する検討

今枝 広丞（滋賀医科大学 消化器内科）

P-06 痔瘻で初発したクローン病症例に対し“Top down療法”は有効である

三枝 直人（三枝クリニック・肛門科）

IBD治療②タクロリムス、免疫調節薬

座長：石原 俊治（島根大学医学部 内科学第二）

P-07 潰瘍性大腸炎に対するタクロリムス長期投与例の臨床経過

小野寺基之（東北大学大学院 消化器病態学分野）

P-08 当院におけるタクロリムスの使用経験

金城 徹（琉球大学医学部附属病院 光学医療診療部）

P-09 難治性潰瘍性大腸炎におけるタクロリムス治療が長期経過に与える影響について

本澤 有介（京都大学医学部附属病院 消化器内科）

P-10 SAPHO症候群と潰瘍性大腸炎の合併にTacrolimusが著効した1例

金澤 潤（北里大学医学部消化器内科学）

P-11 チオプリン製剤の代謝産物である6-methylmercaptipurine/6-thioguanine nucleotide比に影響を与える因子について

馬場 重樹（滋賀医科大学 消化器内科）

IBD治療③アフエレーシス

座長：水野 慎大（慶應義塾大学医学部 消化器内科）

P-12 当院における潰瘍性大腸炎治療に対する血球成分除去療法の治療成績

田中 友隆（県立安芸津病院 内科）

P-13 潰瘍性大腸炎に対する血球成分除去療法の効果に環境因子が及ぼす影響

新崎信一郎（大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学）

P-14 潰瘍性大腸炎に対するGCAP治療前後のMayo内視鏡スコア評価とUCEISスコア評価

大森 敏秀（大森敏秀胃腸科クリニック）

P-15 サイトメガロウイルス腸炎を併発し、顆粒球除去療法（GMA）により改善した潰瘍性大腸炎の1例

金村 知輝（横浜市立大学附属市民総合医療センター・IBDセンター）

P-16 C.difficile感染を合併した重症潰瘍性大腸炎に対しL-CAPが著効した一例

山本祐太郎（呉共済病院 消化器内科）

IBD治療④5-ASA ステロイド

座長：樋田 信幸（兵庫医科大学 炎症性腸疾患内科）

- P-17 潰瘍性大腸炎における5-ASA製剤スイッチ有効性の検討
木下 賢治（北海道大学病院）
- P-18 潰瘍性大腸炎における5-ASA製剤副作用及び不耐症例の検討
星野 敦（獨協医科大学消化器内科）
- P-19 潰瘍性大腸炎に対する経口5-ASA製剤の併用療法
藤原 利成（国立病院機構都城医療センター）
- P-20 難治性潰瘍性大腸炎に対してAdalimumabとステロイドの併用療法で寛解が得られた1例
井尻 学見（旭川医科大学 内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野）
- P-21 炎症性腸疾患に対する外来ステロイド療法の有用性
牟田口 真（慶應義塾大学医学部消化器内科）

その他の治療

座長：梅野 淳嗣（九州大学大学院 病態機能内科学）

- P-22 中等症から重症のクローン病の日本人患者に対するウステキヌマブの有効性及び安全性：国際共同試験の成績
今井 雄也（ヤンセンファーマ株式会社）
- P-23 潰瘍性大腸炎に対する生薬青黛の有効例の特徴
鈴木 英雄（筑波大学附属病院 光学医療診療部）
- P-24 潰瘍性大腸炎に対する青黛の使用成績
冬野 雄太（九州大学大学院病態機能内科学）
- P-25 全ての既存治療に抵抗性で、シロリムスおよびクルクミンが奏功した難治IBDの1例
谷口 勝城（横浜市立大学附属市民総合医療センター・IBDセンター）
- P-26 二次無効と投与時反応の出現に伴い栄養療法へ移行し粘膜治癒と生物学的製剤離脱下の寛解維持に成功した難治性クローン病の2例
西尾 昭宏（兵庫医科大学 炎症性腸疾患内科）
- P-27 クローン病手術例における栄養療法の意義と問題点についての検討
高橋 賢一（東北労災病院 大腸肛門病センター）

IBD画像① Abd US CT MRI

座長：竹内 健（東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座 消化器内科学分野）

- P-28 活動期潰瘍性大腸炎における体外式超音波検査による
罹患範囲診断，活動性評価，治療効果判定の有用性の検討
池崎 修（杏林大学第三内科学）
- P-29 潰瘍性大腸炎活動期におけるCT、腹部超音波検査の比較検討
白木 学（東北労災病院 胃腸科）
- P-30 MR-enterographyが病勢評価判定に有用であった小児クローン病の一例
佐藤 裕基（旭川医科大学 内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野）
- P-31 クローン病小腸狭窄に対するMR所見と内視鏡下バルーン拡張術の手術回避との関係に
対する検討
竹中 健人（東京医科歯科大学消化器内科）
- P-32 顆粒球除去療法を行ったクローン病患者の活動性評価におけるFDG—PETの有用性
桑木光太郎（久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門）

IBD画像② 内視鏡

座長：長堀 正和（東京医科歯科大学 消化器内科）

- P-33 潰瘍性大腸炎におけるUlcerative Colitis Endoscopic Index of Severityと拡大内視
鏡所見との相関と疾患活動性や粘膜治癒の予測における有用性
安藤 勝祥（国際医療福祉大学病院 消化器内科）
- P-34 組織学的Mattsスコアからみた潰瘍性大腸炎の内視鏡所見、臨床経過の検討
柏木 里織（京都府立医科大学消化器内科）
- P-35 潰瘍性大腸炎における内視鏡的活動性の区域分布と臨床症状との関連についての検討
小谷 知弘（順天堂大学医学部附属順天堂医院 消化器内科）
- P-36 クローン病患者に対する小腸カプセル内視鏡検査の有用性の検討
高野 亮佑（浜松医科大学・第一内科）
- P-37 リアルタイムビューアーにてカプセル内視鏡を誘導したクローン病疑いの2小児例
岡藤 啓史（金沢大学附属病院 消化器内科）

興味深い症例

座長：芦塚 伸也（宮崎大学医学部附属病院 第1内科）

- P-38 区域性大腸炎として経過観察中に劇症化した潰瘍性大腸炎の一例
桑水流康介（鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学）
- P-39 腸重積を契機に緊急手術となった潰瘍性大腸炎の1例
平田 晃弘（兵庫医科大学 炎症性腸疾患外科）

- P-40 潰瘍性大腸炎加療中に静脈血栓塞栓症を認めた3例
石橋 朗 (埼玉医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科)
- P-41 病態の異なる虫垂炎を伴ったクローン病の2例
酒見 亮介 (戸畑共立病院 消化器病センター)
- P-42 炎症性腸疾患に合併した腸管気腫性嚢胞症の2例
宮後 冴 (宮崎大学医学部附属病院 第一内科)

血管炎・原因不明の腸炎

座長：山本章二郎 (宮崎大学医学部内科学講座 消化器血液学分野)

- P-43 インフリキシマブが奏功した分類不能型免疫不全症による難治性腸炎の1例
越川 頼光 (京都大学医学研究科消化器内科)
- P-44 出血を繰り返す単純性潰瘍に対してインフリキシマブが著効した一例
伊藤 嵩志 (公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 消化器センター内科)
- P-45 消化管病変を伴った家族性地中海熱の1例
朝倉 謙輔 (岩手医科大学 消化器内科消化管分野)
- P-46 小腸X線・内視鏡所見がえられた好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の1例
川崎 啓祐 (岩手医科大学医学部内科学講座消化器内科消化管分野)
- P-47 周期的に発熱・炎症反応上昇を繰り返し、経過を追えた高安動脈炎に伴う腸炎の一例
和田 晃典 (防衛医科大学校 内科学講座 (二))

ベーチェット病・単純性潰瘍

座長：内山 和彦 (京都府立医科大学 消化器内科)

- P-48 クローン病とベーチェット病における上部消化管病変の比較検討
明本 由衣 (弘前大学大学院医学研究科 消化器血液内科学講座)
- P-49 腸管ベーチェット病および単純性潰瘍28例の臨床的特徴に関する検討
濱元ひとみ (鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学)
- P-50 腸管Behcet病と単純性潰瘍における生物学的製剤の効果
安川 重義 (福岡大学筑紫病院 消化器内科)
- P-51 腸管型ベーチェット病手術例の長期予後の検討
伊勢 一郎 (東北大学 消化器外科学)
- P-52 サリドマイドの長期維持投与後、アダリムマブへのスイッチが有用であった腸管型ベーチェット病の若年女性例
山下 真幸 (聖マリアンナ医科大学 消化器・肝臓内科)

IBD外科

座長：木村 英明（横浜市立大学附属市民総合医療センター 炎症性腸疾患センター）

- P-53 高齢者潰瘍性大腸炎の周術期合併症
坂東 俊宏（兵庫医科大学 炎症性腸疾患外科）
- P-54 大腸亜全摘後にstoma outlet obstruction、および難治性回腸炎に対して手術を要した潰瘍性大腸炎の2例
近藤 哲（三重大学消化管・小児外科）
- P-55 高齢者潰瘍性大腸炎手術例の排便機能についての検討
二木 了（横浜市立市民病院炎症性腸疾患科）
- P-56 クローン病におけるストーマ合併症についての検討
林 貴臣（福岡大学筑紫病院 外科）
- P-57 クローン病の胃十二指腸病変に対する外科治療の検討
羽根田 祥（東北労災病院 大腸肛門外科）
- P-58 クローン病における術後治療と累積再手術率の検討
品川 貴秀（東京大学腫瘍外科）

IBD癌

座長：辰巳 健志（横浜市立市民病院 炎症性腸疾患科）

- P-59 悪性病変合併潰瘍性大腸炎に対する手術例の検討
中山 吾郎（名古屋大学大学院 医学系研究科 消化器外科学）
- P-60 sporadic cancerとの鑑別が困難であった潰瘍性大腸炎合併癌の一例
西俣 伸亮（医療法人博康会アクラス中央病院 内科・消化器内科）
- P-61 ESD施行後、異所性発癌を認めたcolitic cancer合併潰瘍性大腸炎の1例
蝶野 晃弘（兵庫医科大学 炎症性腸疾患外科）
- P-62 潰瘍性大腸炎の穿孔手術後に認めた巨大なcolitic cancerの一例
堀尾 勇規（兵庫医科大学炎症性腸疾患センター）
- P-63 潰瘍性大腸炎重症再燃中に隣癌卵巣転移腹膜播種と診断し、手術後に化学療法を継続している一例
佐々木智彦（横浜市立大学附属病院 消化器内科学）
- P-64 クローン病におけるサーベイランスとしての下部直腸肛門部生検について
平野由紀子（福岡大学筑紫病院 外科）
- P-65 当院におけるクローン病に合併した小腸癌4例
別府 剛志（福岡大学筑紫病院消化器内科）

合併症

座長：加藤 真吾（埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科）

- P-66 潰瘍性大腸炎の治療経過中に重篤な有害事象を来した1例
久保田 陽（北里大学医学部 消化器内科学）
- P-67 インフリキシマブ投与後一過性にIgA血管炎様紫斑が出現するクローン病の1例
川島 耕作（島根大学医学部附属病院 IBDセンター）
- P-68 インフリキシマブ増量後にニューモシスチス肺炎を発症したクローン病の1例
岩間 琢哉（旭川医科大学 内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野）
- P-69 インフリキシマブ投与中に高度の血小板減少症を発症した潰瘍性大腸炎の一例
玉置 敬之（高松赤十字病院 消化器内科）
- P-70 炎症性腸疾患に対する抗TNF α 抗体製剤療法中に乾癬様皮疹を発病した8例
有光 晶子（医療法人錦秀会インフュージョンクリニック）
- P-71 Azathioprine投与により無顆粒球症, 脱毛をきたした潰瘍性大腸炎の2例
鮫島 洋一（公益財団法人慈愛会 今村病院 消化器内科）

感染症

座長：井上 聡子（神戸市立医療センター中央市民病院 消化器内科）

- P-72 活動期潰瘍性大腸炎の腸管組織におけるEpstein-Barr virus発現についての検討
山田 聡（京都大学大学院医学研究科 消化器内科）
- P-73 帯状疱疹ウイルス感染に伴い潰瘍性大腸炎の増悪を認めた一例
西村 聡（公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院・消化器センター内科）
- P-74 潰瘍性大腸炎に合併したCytomegalovirus腸炎の再発に関する検討
北本 博規（神戸市立医療センター中央市民病院 消化器内科）
- P-75 免疫抑制治療中にサイトメガロウイルス(CMV)感染を併発したクローン病の2症例
石井 義人（横浜市立大学附属市民総合医療センター IBDセンター）
- P-76 腸管スピロヘータ症を合併したIBD5例の検討
梅田 智子（北里大学北里研究所病院消化器内科）

その他

座長：長坂 光夫（藤田保健衛生大学 消化管内科）

P-77 高齢発症潰瘍性大腸炎患者の臨床的特徴についての検討

田中 信（京都府立医科大学 消化器内科）

P-78 当院で経験した炎症性腸疾患合併妊娠23例の臨床的検討

南 尚希（京都大学大学院医学研究科消化器内科）

P-79 子宮収縮剤投与を機に低Mg血症による肝障害，テタニーを来したCD分娩後症例

芳賀 暁（横浜市立大学附属市民総合医療センター・IBDセンター）

P-80 炎症性腸疾患患者におけるワクチン接種の必要性に関する検討

上野 伸展（旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野）

基礎①

座長：荻野 治栄（北九州市立医療センター）

P-81 炎症性腸疾患におけるSHAP-HAの形成と役割

山口 純治（愛知医科大学 消化管内科）

P-82 デキストラン硫酸ナトリウム(DSS)誘発腸炎マウスモデルにおける高吸収クルクミン製剤の効果の検討

大野 将司（滋賀医科大学消化器内科）

P-83 大腸上皮分泌タンパクREL β (FIZZ2)はMRSA/MSSAに抗菌活性を有し潰瘍性大腸炎で発現が低下する(続報)

渡辺 和宏（東北大学 消化器外科学）

P-84 DigoxinによるTh17細胞抑制効果はCrohn病動物モデルを改善させる

谷 伸也（浜松医科大学第一内科）

P-85 Interleukin-1 β は大腸筋線維芽細胞においてInterleukin-36 γ の発現を誘導する

高橋憲一郎（滋賀医科大学 消化器内科）

基礎②

座長：土屋輝一郎（東京医科歯科大学 消化器内科）

P-86 炎症性腸疾患の病態形成におけるInterleukin36の役割

西田 淳史（滋賀医科大学 消化器内科）

P-87 炎症性腸疾患でのInterleukin 26の発現および機能解析

藤井 誠（滋賀医科大学消化器内科）

P-88 腸炎関連大腸癌モデルマウスにおけるSmad2/3蛋白リンカー一部リン酸化の発癌との関連性についての検討

福井 寿朗（関西医科大学 内科学第三講座）

- P-89 炎症性腸疾患患者におけるSLCO2A1の発現
梁井 俊一（岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野）
- P-90 大建中湯（TU-100）はクローン病患者の血中アドレノメデュリンを増加させる
米湊 健（久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門）

基礎③ バイオマーカー その他

座長：竹島 史直（長崎大学病院 消化器内科）

- P-91 小児潰瘍性大腸炎の再燃予測における便中カルプロテクチンの有用性
青松 友槻（大阪医科大学小児科）
- P-92 臨床的寛解潰瘍性大腸炎患者における便中マーカーとUCEISとの関連に関する検討
三根祥一郎（長崎大学病院・消化器内科）
- P-93 クローン病の腸管狭窄と血清線維化マーカーとの関連について
辻川 知之（国立病院機構 東近江総合医療センター 消化器内科）
- P-94 チオプリン誘発性白血球減少とNUDT15遺伝子多型との関連についての検討
西田 淳史（滋賀医科大学 消化器内科）
- P-95 抗TNF α 抗体投与クローン病患者の酸化ストレスと長期予後
山本 一成（岩手医科大学消化器内科消化管分野）

メディカルスタッフ（コメディカル）

座長：岸 昌廣（福岡大学筑紫病院 消化器内科）

- P-96 炎症性腸疾患患者の大腸内視鏡検査前処置に関する検討
袴田 麻美（札幌東徳洲会病院 看護部）
- P-97 クローン病患者の成分栄養剤における術後再発予防の効果の検討
長沼 文子（札幌東徳洲会病院栄養科）
- P-98 炎症性腸疾患診療における薬剤師外来の役割の検討
宇田川雄也（医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 卒後研修センター）
- P-99 潰瘍性大腸炎患者への局所製剤使用アドヒアランスと治療成績
八木澤啓司（北里大学北里研究所病院 薬剤部）
- P-100 クローン病患者の運動習慣についての実態調査
水野 光（大阪大学医学部附属病院）
- P-101 炎症性腸疾患患者のストーマ管理上の問題点とセルフケア指導
園田みずき（福岡大学筑紫病院 看護部）
- P-102 成人初期IBD患者の就業実態に関する研究
～就業に関するニードを探る～
笠 美和（福岡大学筑紫病院看護部）